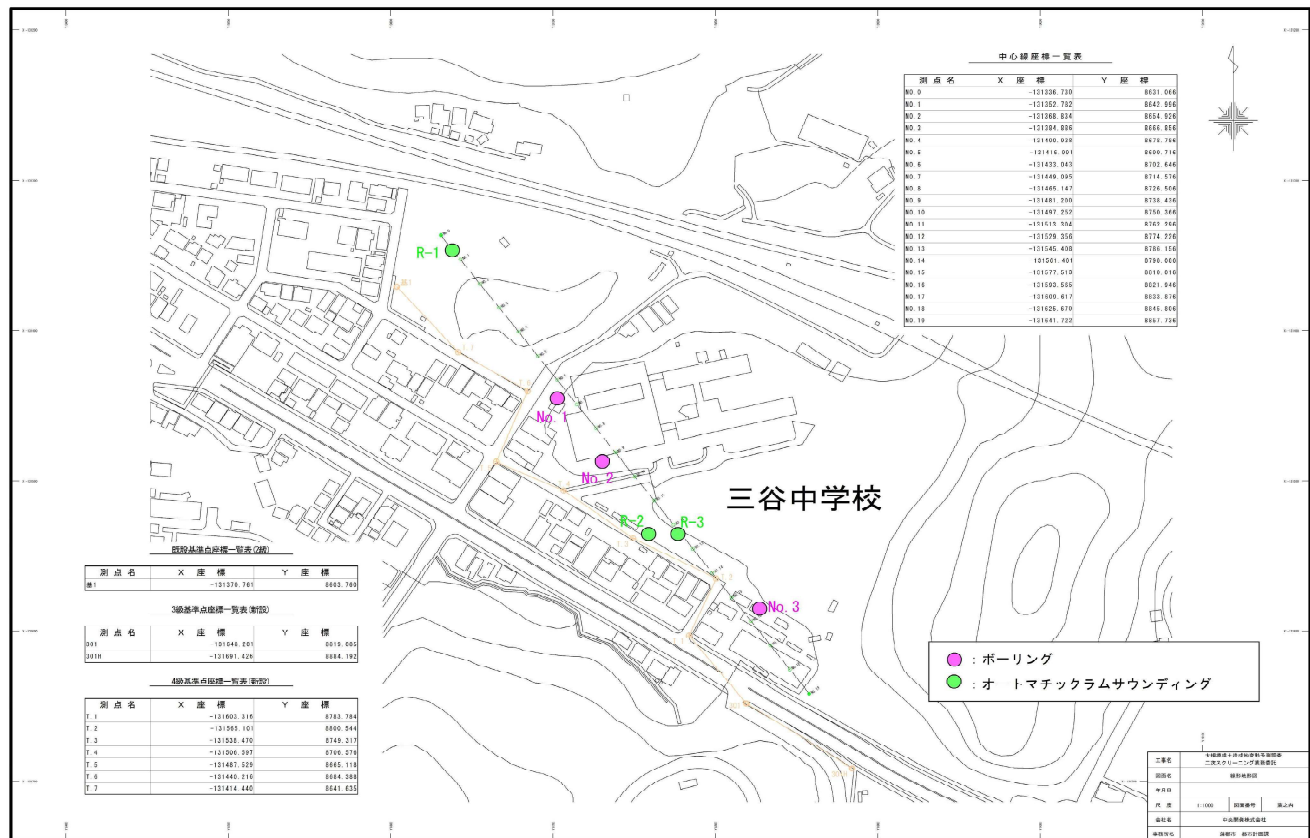


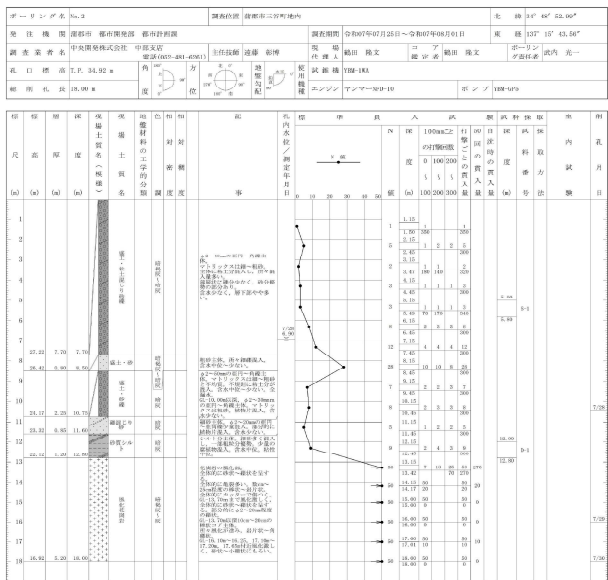
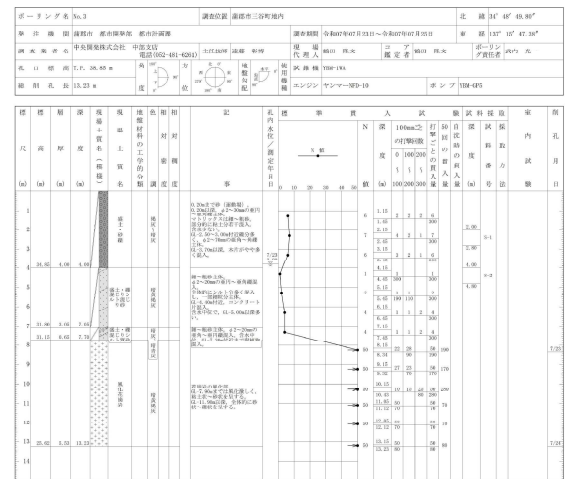
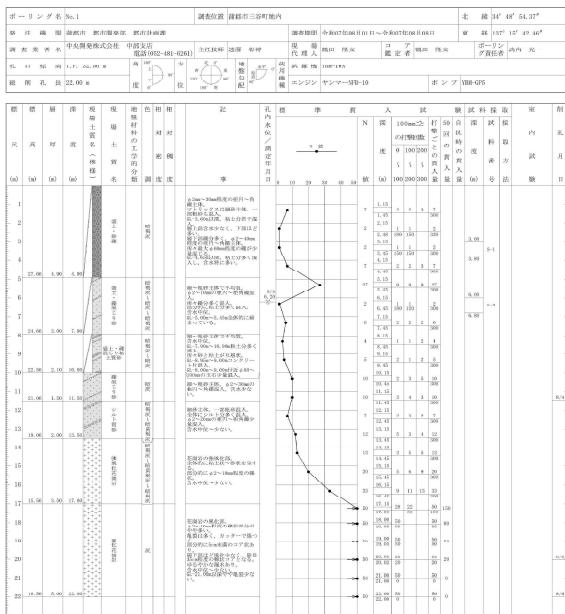
宅 地 概 要（第一次スクリーニング結果）									
盛土番号	H25-8		宅地名	蒲郡東部区画整理事業		造成(許可)年代	S45年～S53年		
所在地住所	蒲郡市三谷町東一丁目ほか								
盛土形式	■ 人工造成地（ ■ 谷埋め型 □ 腹付け型 ） □ 自然斜面								
盛土形状	盛土面積A	16,360	m ²	盛土幅W	65.8	m	盛土距離d	253.1	m
	盛土高さH	11.3	m	盛土厚さD	3.0	m	原地盤勾配α	2.4	°
宅 地 概 要（第二次スクリーニング計画の作成）									
優先度評価項目				判 定（ 記 事 ）					
①	盛土および擁壁の形状と構造が標準的な形状と構造に該当			■ 非該当 □ 該当		（ 増積擁壁（三谷中学校プール） ）			
②	宅地地盤・擁壁・のり面の変状			■ 有 □ 無		（ ブロック積擁壁の開き・クラック・孕み多くみられる ）			
③	地下水			■ 有 □ 可能性有 □ 無		（ 末端付近コンクリート擁壁からの恒常的な出水 ）			
④	盛土の下不安定な土層			□ 有 □ 不明 ■ 無		（ 扇状地性堆積物 ）			
⑤	造成年代（基準年以前／後）			□ 以前 ■ 後		（ S45年～S53年 ）			
⑥	変動確率			■ 大 □ 小		（ ）			
【総評】	盛土末端部はため池で法面となっている。盛土内にはこの他法面はないが、擁壁は多くみられる。上部の三谷中学校プール部分は増積擁壁となっており、擁壁の構造は標準的ではないと判断した。変状は、盛土内の擁壁でブロックの開きやクラック・孕み・目地開きなどの変状が多くみられるため変状有とした。地下水は、末端部付近のコンクリート擁壁から恒常的な出水が確認されたため、「有」と判定した。地質図では沖積層は分布しないため、盛土下の不安定な土層は「無」とした。造成年代は基準年以後である。変動確率は、点数方式と数量化Ⅱ類方式が中央値以上、側部抵抗モデルも1.0以下のため「大」とした。以上の結果から、危険度ランクは「A1」となる。保全対象は、公共施設等は2箇所（三谷中学校・国道247号）、住宅数は37戸であるため被害規模想定の評価は「a」となる。盛土末端部の形状は擁壁があるが盛土距離が長いため、被害想定形態は「すべり崩壊」とした。					想定被害形態			
						すべり崩壊			
						優先度			
						A1			
宅 地 概 要（第二次スクリーニング）									
【地盤定数】									
地 層 名		地層記号	設計N値	単位体積重量γ t (kN/m ³)	粘着力c (kN/m ²)	内部摩擦角φ (度)			
盛土層		B1	5	18.0	4.0	34.0			
		B2	8	20.0	12.0	35.9			
完新世	谷底堆積物	砂質土層	bm-s	8	17.0	0.0	29.5		
		粘性土層	bm-c	9	20.0	144.0	0		
後期白堊紀	花崗岩	強風化	GK-DL	22	16.7	41.7	36.1		
		風化	GK-DH以上	50	18.1	54.6	37.9		
【安定計算結果】									
番号		すべり面		常時		地震時			
				最小安全率		最小安全率			
①	全体	B1下部		21.845		2.984			
②		B2下部		16.019		2.838			
③		基盤（DH以上）上部		11.096		2.599			
④		基盤（DH以上）上部-全体		14.813		2.962			
⑤	小段	上段	B1下部	24.683		3.003			
⑥			B2下部	18.987		2.790			
⑦		中段	B1下部	13.395		2.739			
⑧			B2下部	16.818		2.992			
⑨		下段	B1下部	17.586		2.738			
⑩			B2下部	10.464		2.425			
⑪			基盤（DH以上）上部	7.054		2.100			
				1.5以上必要		1.0以上必要			
【総評】	盛土全体がすべるケース、および小段のみがすべるケースを想定した。さらに各ケースにおいて、盛土中で滑るケース、盛土および基礎地盤(DL)と基礎地盤(DH以上)で滑るケースを想定した。必要な安全率は、常時は1.5以上、地震時は1.0以上必要である。解析の結果、全ケースにおいて問題ない結果になった。								

【位置図】	
【断面図】	
全体	
小段ごと	
変動予測調査後	
【工事の記録】	
【点検の記録】	

【平面図】



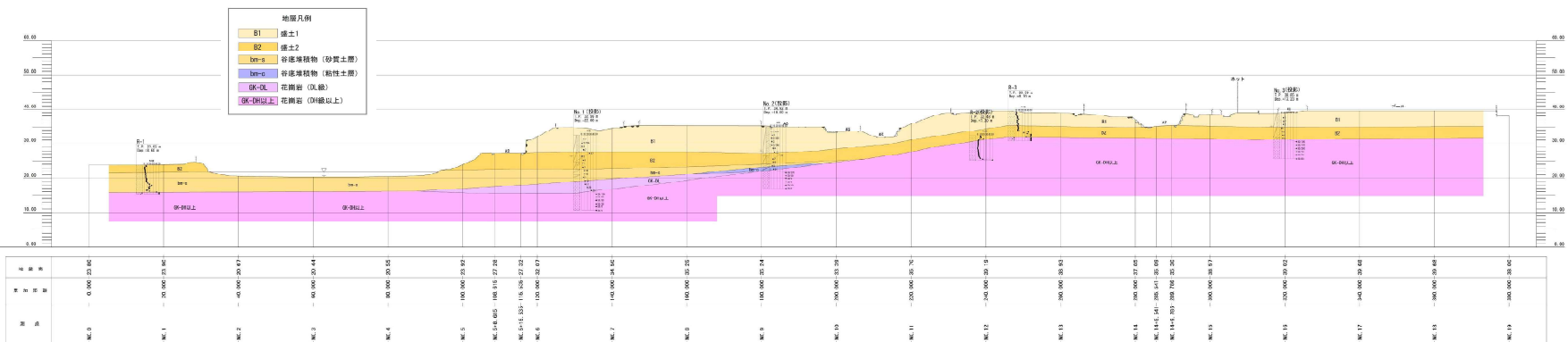
【ボーリング調査結果】



【地盤定数】

地 層 名				地層 記号	設計 N 值	單位体積重量 γ_t (kN/m ³)	粘着力 c (kN/m ²)	内部摩擦角 ϕ (度)
盛土層				B1	5	18.0	4.0	34.0
				B2	8	20.0	12.0	35.9
完 新 世	谷 底 堆 積 物	砂質土層		bm-s	8	17.0	0.0	29.5
		粘性土層		bm-c	9	20.0	144.0	0
後 期 白 垂 紀	領 家 深 成 岩	花崗岩	強風化	GK-DL	22	16.7	41.7	36.1
			風化	GK-DH以上	50	18.1	54.6	37.9

【断面図】



・盛土(B)は、地表面から層厚7.70～10.74m(平均9.48m)で分布する。地質およびN値により、B1層、B2層の2層に分類される。B1層はN値は1～12(平均5.1)と全体的に低い。B2層はN値は1～28(平均8.2)と全体的にやや低い。

・谷底堆積物(bm)は、No.2地点から北西側にかけて分布する。主要土層は砂質土層のbm-s層であり、No.2地点周辺にのみ部分的に粘性土層bm-c層が分布する。bm-s層層はN値は5~12(平均8.8)と全体的に低い。bm-c層はN値は9粘性土層としてはやや高い。

・花崗岩(GK)は谷底堆積物(bm)の下位に分布し、本調査地周辺の基盤岩である。No.1地点周辺にのみ層厚3.50mがDL級であるが、その他はDH級以上である。GK-DL層はN値は13~33(平均2.2)と基盤岩としては低い値を示す。GK-DH以上層はN値は50以上と均質であり、非常に高い値を示す。

・地下水位は、GL-3.8～6.9m(TP+32.56～+38.85m)であり、盛土層のB1層～B2層中に確認された。

【総評】